

# Japan Open Science Summit 2018 (JOSS2018)

## セッション E3 : BoF: 研究データ管理に必要なシステム

2018年6月18日(月) 16:30~18:00

### ディスカッション・議事メモ

(下記を例として挙げていますが、これに限らず研究データ基盤の開発における課題や事例、アイデアがありましたらテーマとしてご提案・ご議論いただければと思います。)

#### ・研究データ基盤システムを開発、導入する上での組織内部の障壁

・それなりの大きさのプラットフォームというものはメンテナンスコストが高い、うちのデータベースプラットフォームはセキュリティ脆弱性対応で今年 600 万持っていられる…

・人文社会学系かつそもそも RDM の話が出てこないため、各部署や研究者に対して意義やメタデータスキーマの説明するのに困っており、予算化以前の話となっている。(研究会や事務手続き的な点では業務削減や効率化のため関心は持たれているが、誰もがどうすればいいかわからない状態)

- (特に社会系だと) ちょっと昔で言う「比較」研究、最近ではもう少し複雑な構図を想定して「相関」研究とかだと研究データの共有と比較という課題は生じると思うのですが、具体的にはどういう分野でしょうか。

- 主に経済学で、他には政治学や民族学です。研究者同士のプライベートなやりとりはなされているようですが、事務側では把握しきれていない状態です。経済学等は相関研究を進めている際に課題であるという認識はあるようですが、政治学や民族学だとデータの特性や単著が多いため情報の欠損が生じており、まあそんなものかと流されていると思います。(特に現地調査やインタビューの場合は個人情報も含んでいるためオープンにしにくいかわれれます。)

- 確かに共同研究くらいの形でデータ共有されてしまって、その外にオープンにしたり、プロセスを管理したりということは、研究者にとってインセンティブが薄いのかもしれませんね。

- 現地調査データはうちも扱っていて、その管理には苦労するところがあります。昔だと半裸の現地の方を撮っている写真は問題にならなかったけれど、今では問題になるだろうとか、倫理・プライバシー概念のアップデートをどのように扱うかという問題とかも。「オープンにしなくていいから、(なぜオープンにしないかを考えて書いて) DMP は作ってね」という話が別セッションでありましたが、そうすると、まさに初めの RDM の必要性が理解されない問題にもどってしまいますね。

- 写真や退職された研究者の著作物について、倫理規定や著作権の権利関係も手伝って議論が先に進んでいないですね。その点何もかもできないので、むしろ下地が何もないという点では互換性などを検討することなく Gakunin RDM が入れられるのかもしれません。(そのための導入準備を今のうちに根回ししないといけないという点はありますが。あるいは予算化の壁があるなら OSS で構築するというのもありかもしれない)

- ・多くの材料を扱うが、メタデータが多すぎて管理しきれない。多すぎるメタデータを管理する最適な方法はあるのだろうか。あるいは材料ごとに収録するメタデータを選択すべき？
- ・予算が限られているという意味では、民間企業や助成とのマッチングも含めて制度設計も同時に必要だと感じた。

#### ・研究データ基盤で必要なストレージサイズやコスト見積もり

- ・予算ベースで、研究者に聞くと多めの見積もりを挙げてくる
- ・無加工のデータなどもある、分野ごとに異なる。どこかでアッパーリミットが欲しい。
- ・研究プロジェクトごとに規模に見合ったストレージを払い出す。把握に務める。

#### ・各組織の研究データ管理のポリシー、ガイドラインの整備状況

#### ・研究データの再利用に向けた基盤開発の取り組み

#### ・その他

- 分野リポジトリ（機関リポジトリに対する概念）の話がC1セッションでありました。内閣府の構図としては、文科省&NIIは機関リポジトリを対応する、国研や学協会のもつ分野リポジトリは別、みたいな話がありましたが、NIIとしてそこはどう考えてらっしゃいますか。学協会との役割分担の構想を含めてご意見を
- セッション内で質問できなかったのですが、NIMSでのメタデータ策定(DCやマテリアル関係)において参考にした事例や研究者に対して行ったヒアリング等はありませんでしたか。